

# 平成29年度 文書館評価

## 評価項目1 文書館の利用 県民の共有財産である文書館の収蔵資料の利用、活用を図ります。

測定項目	過年度実績			目標値A	実績値B	達成率 B / A	前年度からの課題 その他 目標値の設定理由	29年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	26年度	27年度	28年度	29年度					
1 登録者数	1,931	2,061	2,223	-			<p>29～30年度は大規模改修工事にともない、臨時休館及び仮事務所でのご利用となるため、利用サービスの停止(臨時休館中)ないし限定(暫定開館中)をせざるをえませんが、このため、利用者の方々に混乱のないよう周知に努めるとともに、円滑な利用サービスに努める必要があります。</p> <p>また、28年度の利用レベルが2年後のリニューアル・オープンに際して低下することなく、さらに増加を図るための活動が29～30年度には必要となります。具体的には、アウトリーチ手法による普及事業、ホームページ等での魅力発信、リニューアル・オープン時の公開資料拡大のための資料整理等に努める必要があります。</p> <p>29年度は大規模改修工事による仮事務所への移転のため、通常開館は4～5月の2か月にとどまり、6～10月は資料搬出等のための臨時休館となります。11月以降も仮事務所における閲覧資料の範囲や点数などに制限のある閲覧体制とならざるをえません。</p> <p>このため、評価項目1については目標値の設定は行いません。保存の観点からも資料に負担をかける閲覧体制とならざるを得ないため、閲覧者数や利用点数が多いことが単純に良い評価とはならないからです。数値目標を設けるのではなく、ひとつひとつの閲覧希望に対して安全・確実に応えていくことが目標となります。また、利用点数とレファレンス件数が減少していることから、文書館の存在や利用方法、収蔵資料への関心を高める努力を続けていく必要があります。</p>	<p>展示や講座・講習会などの普及事業は、他の博物館や図書館等と連携したアウトリーチ手法により積極的に展開します。これにより、リニューアル・オープン後の利用につなげていけるよう、文書館資料の魅力を広く館外でアピールします。</p> <p>来館での利用が縮小される分、移転の準備や大規模改修工事の状況、その間の文書館の活動業務などをホームページで発信していきます。</p> <p>臨時休館や仮事務所での利用方法などの周知を図り、照会や利用希望に丁寧に対応します。</p> <p>リニューアル・オープン後の利用拡大につながるよう、資料整理を促進します。</p>	
2 閲覧者数	4,190	4,629	4,532	-					
3 利用点数	34,086	35,587	42,263	-					
4 レファレンス件数	1,056	670	223	-					
5 検索システムアクセス件数	77,750	100,912	95,419	-					
参考) 利用者数	17,929	20,169	16,936	-					
参考) ホームページアクセス数	75,102	105,185	89,085	-					

## 評価項目2 行政文書の公開 歴史的・文化的に価値ある行政文書を収集・整理し公開することにより、県政の記憶装置として県民の要望に応えます。

測定項目	過年度実績 (公開累積数で表示)			目標値A	実績値B	達成率 B / A	前年度からの課題 その他 目標値の設定理由	29年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	26年度	27年度	28年度	29年度					
行政文書の公開(予定)点数 (整理済点数)	160,985	170,186	177,940	180,000			<p>29～30年度は新たに収集する文書の保管場所が限られるため、管理委任文書の受入を取りやめざるをえませんが、2年後のリニューアル・オープン後に、受入を止めていた管理委任文書をどのように受け入れていくか、今後、検討する必要があります。</p> <p>歴史的資料については散逸を防ぐため、保管場所を工夫しながら引き続き収集に努める必要があります。</p> <p>29～30年度は暫定開館ないし休館となり新たな公開はできないため、31年度のリニューアル・オープン後に公開できるよう整理を済ませておく点数を測定項目としました。</p> <p>例年に比べ収集点数が大幅に少なくなることが見込まれるため、昨年度の目標値の半減以下である約2,000点としました。</p>	<p>引き続き、研修や庁内広報等により県職員の公文書に対する意識啓発を図ります。</p> <p>東日本大震災などの歴史的資料については、資料を外部保管庫に預けるタイミングに間に合うように収集を行います。</p> <p>2年後のリニューアル・オープン後に、受け入れを取りやめていた管理委任文書をどのように受け入れていくか、関係課と協議を図ります。</p>	

評価項目3 古文書の公開 埼玉県に関する歴史的・文化的に価値ある古文書の整理・公開を促進して県民共有の財産とし、県民の要望に応えます。

測定項目	過年度実績			目標値A	実績値B	達成率 B/A	前年度からの課題 その他 目標値の設定理由	29年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	26年度	27年度	28年度						
古文書の公開(予定)点数 (整理済点数)	411,692	421,617	428,866	435,677			<p>平成29～30年度は大規模改修により休館となり、古文書を外部保管庫に移転し整理作業が困難となるため、これに応じた取組を図る必要があります。</p> <p>すでに収蔵された古文書だけでなく、民間所在の古文書の保存を図ることも重要であるため、その所在管理情報等について、市町村と連携をとりながら把握し、県全体の地域史料の保全に取り組む必要があります。</p> <p>29～30年度は暫定開館ないし休館となり新たな公開はできないため、31年度のリニューアル・オープン後に公開できるよう整理を済ませておく点数を測定項目としました。</p> <p>これまで未着手であった他機関所蔵の本県関係古文書写真版からの目録化作業を進めるため、これらも含めた整理点数を目標値としました。</p>	<p>新たな県内古文書所在情報の収集に努めるとともに、県内市町村と連携をとりながら、所有者との確認・調査作業を実施して、開館後の収蔵をめざします。</p> <p>県内外の史料保存機関に所在する県内関係古文書の調査と写真による収集を積極的に行います。</p>	
報道写真の公開(予定)点数 (整理済点数)	76,363	107,417	136,786	150,000			<p>平成29～30年度は、大規模改修により原版ネガフィルムや紙焼き資料を館外の保管庫に移設するため整理作業が困難となりますが、そのなかでも順次整理とデジタル化を進める必要があります。</p> <p>大規模改修工事では原版となるネガフィルムの適切な保存環境の整備について取り組みます。</p> <p>29～30年度は暫定開館ないし休館となり新たな公開はできないため、31年度のリニューアル・オープン後に公開できるよう整理を済ませておく点数を測定項目としました。</p> <p>制約の多い中での整理作業となるため、目標点数は例年の50%程度に設定せざるを得ませんでした。</p>	<p>これまで公開を行ってきた戦後報道写真の紙焼版からデジタル化作業を進めるなど、リニューアル・オープン後の利便性を高める取組を図ります。</p> <p>大規模改修工事により、フィルムの保存に適した温湿度環境を整えます。</p>	

評価項目4 地図資料の公開 埼玉県に関わる地図資料を収集して、整理、公開を進め県民共有の財産として公開します。

測定項目	過年度実績 (公開累積数で表示)			目標値A	実績値B	達成率 B/A	前年度からの課題 その他 目標値の設定理由	29年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	26年度	27年度	28年度						
地図資料の公開(予定)点数 (整理済点数)	74,917	76,929	77,966	79,000			<p>大規模改修工事以降は、新たに収集する地図の保管場所が制限されるため、県庁各課・市町村に対する収集依頼時期を例年より前倒しする等の工夫をする必要があります。</p> <p>2年後のリニューアル・オープン時に円滑に地図センターが開館できるように、臨時休館以降、収蔵資料の整理を行う必要があります。</p> <p>29～30年度は暫定開館ないし休館となり新たな公開はできないため、31年度のリニューアル・オープン後に公開できるよう整理を済ませておく点数を測定項目としました。</p> <p>仮事務所においては県航空写真以外の地図は閲覧対象外となりますが、平成28年度と同様、約1,000点の収集地図の整理を行うことを目標値として設定しました。</p>	<p>外部保管庫に預けるタイミングに間に合うように、例年より早い時期に県庁各課と市町村に対し、地図の収集を依頼します。</p> <p>臨時休館開始直後から収蔵資料の整理を行い、2年後のリニューアル・オープンを見据えた対応を図ります。</p>	

評価項目5 史料叢書の刊行及び県史編さん資料の整理公開 郷土埼玉に関する貴重な史料を刊行するとともに県史編さん資料を整理し公開します。

測定項目	過年度実績			目標値A	実績値B	達成率 B/A	前年度からの課題 その他 目標値の設定理由	29年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	26年度	27年度	28年度	29年度					
1 史料叢書の刊行	第17巻 埼玉県 布達集 一	第18巻 埼玉県 布達集 二	第19巻 埼玉県 布達集 三	第20巻 埼玉県布達 集四			平成29～30年度にかけて大規模改修工事にもない編集作業が制約を受けますが、28年度に検討した刊行計画にもとづき、『埼玉県史料叢書』にかかる調査と刊行準備を進めます。  第20巻の円滑な刊行を目標としました。	第20巻の円滑な刊行を行います。  次巻以降の刊行計画に合わせて小室家史料の調査・編集作業を進めます。  県史編さん資料の分類整理を休館中に実施します。	
2 県史編さん資料(写真資料等)の公開(予定)点数(整理済点数)(累積数で表示)	15,761	18,479	21,507	23,007			大規模改修工事により県史編さん資料の整理作業が困難となりますが、この間にデジタル化が終了した資料の公開手続きに取り組みます。  29～30年度は暫定閉館ないし休館となり新たな公開はできないため、31年度のリニューアル・オープン後に公開できるよう整理を済ませておく点数を測定項目としました。  大規模改修工事による制約条件があり、28年度の実績値は困難と考えられるものの同程度の目標値を目指して設定としました。		

評価項目6 収蔵資料の保存 県民共有の財産である古文書・行政文書などの資料を後世に伝えていくため、良好な状態で保存し、収蔵資料の劣化を防止します。

測定項目	過年度実績			目標値A	実績値B	達成率 B/A	前年度からの課題 その他 目標値の設定理由	29年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	26年度	27年度	28年度	29年度					
1 古文書：修復(枚)	114	116	114	-			平成29～30年度にかけて当館の大規模改修が行われるため、館内での修復作業と古文書のマイクロフィルム化は不可能となります。このため、修復作業を館外で実施する可能性も検討する必要があります。  修復枚数の測定項目に対しては目標の数値設定を行いませんが、限られた回数でも継続してまいります。	修復活動は、作業場所を館内から外部に移して行います。  昨年度に引き続き、ボランティアの技術の維持向上のため研修等を実施します。	
2 古文書：報道写真デジタル化(点)	766 (累計)	796 (累計)	826 (累計)	856 (累計)			彩の国デジタルスキップステーションとの連携による埼玉新聞社撮影戦後報道写真のデジタル画像の公開は、改修工事中においても計画的に実施することにより例年並みの点数は可能と判断し、昨年同様の目標値としています。		
3 行政文書：重要文化財指定文書の複製化(冊)(コマ)	190 (77,654 コマ)	151 (71,202 コマ)	127 (53,958 コマ)	-			重要文化財指定文書については、経年劣化等により傷みが激しい文書もあり、複製化の対応が難しいものもあるため、これらについては、従来の複製化にあわせてマイクロ撮影に耐えうる範囲の修理を実施する必要があります。  29～31年度の大規模改修工事による文書の館外保管という機に、従来の複製化にあわせて専門業者による修復を実施します。文化庁からの指導・助言を受けながら、単年度で事業が完成できるように、進捗状況をしっかりと把握する必要があります。このため、29年度は10冊の文書について、修復と複製化(4,000コマ)を実施する予定ですが、昨年度までとは異なる事業内容となるため、目標値としては設定を行いません。	マイクロフィルム撮影に耐えうる範囲での軽微な修理対象となる重要文化財指定文書を選定した上で、契約業者のもとで修理・撮影を行い、複製化を進め、保存と利用の調整を図ります。	

評価項目7 文書館の普及、連携、協力活動 行政文書・古文書・地図等の収蔵資料を活用した講座・講習会及び子ども体験事業を通じて、県民の学習意欲と理解を深め、文書館の利用を促します。

測定項目		過年度実績			目標値A	実績値B	達成率 B / A	前年度からの課題 その他 目標値の設定理由	29年度の取組	次年度以降に向けた改善点
		26年度	27年度	28年度	29年度					
1 講座、普及事業	回数	32	32	32	30		<p>平成29～30年度は、大規模改修工事により館内の講座室が使用不能となるため、この期間の講座・普及事業や学校連携事業については、外部の公民館や博物館・図書館等と共催で実施するなどの対応を図ることにより、サービス水準の維持を検討を図る必要があります。</p> <p>古文書修復ボランティアについても、館内の作業場所使用が困難なため、外部に作業場を借りて作業を行うほか、資質向上に向けた研修会を引き続き実施します。</p> <p>講座や学校連携事業、それにとまらな子供事業ボランティアについては今年度は館内開催が不可能なため、開催回数・参加人数とも目標値を若干減らざるをえませんでした。が、外部の県立機関等と共催で開催します。</p> <p>古文書修復ボランティア等についても、目標値を下げざるをえませんでした。が、視察研修等を行い、技術が継続できるように努めます。</p>	<p>各種講座を他館との連携等により外部施設を使用して開催することにより、大きくサービスが低下しないように努めます。</p> <p>学校との連携では、文書館に迎え入れることはできませんが、出前授業や外部会場での教員研修などに努めます。</p> <p>古文書修復ボランティアについては、技術の継続性を重視した資質向上に向けた研修会を実施します。</p>		
	人数	1,313	1,293	1,310	1,000					
2 学校との連携事業	回数	40	45	50	45					
	人数	1,156	1,323	1,255	1,000					
3 ボランティア活動 古文書補修	回数	39	40	40	30					
	延人数	340	221	276	100					
4 ボランティア活動 子供事業	回数	12	12	13	8					
	延人数	63	105	35	30					

評価項目8 展示 収蔵資料を利用・活用してもらい導入部分として常設展示、コーナー展示をそれぞれ開催します。

測定項目		過年度実績			目標値A	実績値B	達成率 B / A	前年度からの課題 その他 目標値の設定理由	29年度の取組	次年度以降に向けた改善点
		26年度	27年度	28年度	29年度					
年間観覧者数(人)		8,755	10,283	7,216	-		<p>平成29年～30年度は、大規模改修工事により、当館の展示室も閉鎖されることから、歴史と民俗の博物館と連携し、年間を通じて共催の展示を開催します。</p> <p>歴史と民俗の博物館常設展示の1コーナーを利用した展示となり、独自の観覧者数計測が不可能なため、目標値の設定は行いません。</p>	<p>歴史と民俗の博物館において年間を通じて共催の展示を開催することにより、文書館自体の外部アピールを図り、リニューアル・オープン後の利用者層拡大につなげます。</p>		